

## 令和 7 年度 立科 WORK TRIP 事業報告

- ・今年度の企業型ワーケーションの利用は 23 組 269 人 477 人泊  
(令和 6 年度は 33 組 298 人 528 人泊)

主な利用目的は、キックオフミーティング、新人研修、2 年目研修、レイヤー別研修、開発合宿等、コロナ明け以降、ワークスタイルがソロワークスタイルになっているため(コロナ前のグループワークスタイルではなく、ソロワークスタイルへの変化のため、入社回帰と言われてはいるが従前とワークスタイルが異なるため、オフサイトミーティングの重要性が高まっている。また、労働者不足、副業の増加が背景で、同一社内に限らず、プロジェクト単位でアサインしている企業同士、チーム同士でのワークが増えてきており、オンラインではなく、リアリに相対してキックオフミーティングの需要が生じている。

企業にとっては人材採用、離職防止のためのエンゲージメント率増加のためのオフサイトミーティングを利用も引き続き需要がある。立科 WOKTRIP 事業は、この事業をしていなければ観光では立科町が選択肢にあげられない人たちを、獲得し、観光消費増に繋げられる。来訪者の底上げになるとともに、いわゆる”ゼロイチ”を創れている非常に取組価値のある事業である。

また、観光庁事業である「企業版第二の故郷事業」に採択された千曲市と連携し、2 回ワーケーションを実施した。

### ➡23 組中の Lakeoffice 利用 12 回 210 人

個人利用(ドロップイン)については、産業振興課観光係マターであるため、把握できず

### ➡越境学習コンテンツ利用 10 回 84 人

(信州関農園、アツマルセンター、たてしなップルワイナリー、domasauna)

- ・利用宿泊施設割合(大規模宿泊施設 39% 小規模宿泊施設 61%)  
(令和 6 年度は 大規模宿泊施設 66% 小規模宿泊施設 34%)

会議室を有する大規模施設に偏らず、Lakeoffice があることで「職泊分離」につながり、宿泊施設選択の自由度が増している。

### 【営業・広報について】

- ・立科 WORKTRIP web サイトでの問い合わせ対応
- ・利用企業からの紹介
- ・信州リゾートテレワークからの紹介
- ・日本ワーケーション協会からの紹介
- ・日本テレワーク協会からの紹介
- ・観光庁関連のアドバイザー業務、先進地視察受入対応

新たに、オフサイトミーティング挙手型マッチングサイト「MEETS CUL」への登録

### 【課題について】

- ・ワーケーションコーディネーターの人材不足  
(地域おこし協力隊の協力要請)

OJT→日本ワーケーション協会認定コンシェルジュへの推薦→任期完了後の収益のひとつとして